学位報告１－１

別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号

氏　　名　小野靖之

論文題目

Pancreaticobiliary Maljunction Without Bile Duct Dilatation in Children: Distinction From Choledochal Cyst

（小児における胆管非拡張型膵・胆管合流異常：
先天性胆道拡張症との違い）

論文審査担当者

主査　委員　名古屋大学教授　柳野正人

委員　名古屋大学教授　後藤秀実

委員　名古屋大学教授　小寺泰弘

指導教授　名古屋大学教授　内田広夫

論文審査の結果の要旨

膵・胆管合流異常には，胆管拡張を伴う先天性胆道拡張症と伴わない胆管非拡張型がある。非拡張型の合流異常は小児と成人において臨床的特徴や治療法が異なる。このため非拡張型における小児と成人との病態の違い，非拡張型と先天性胆道拡張症との鑑別が臨床上問題になる。

本研究では，小児の膵・胆管合流異常 150 例の胆道造影所見を詳細に検討することにより，非拡張型と先天性胆道拡張症との差異について検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 膵・胆管合流異常は ERCP，MRCP や術中胆道造影により異常に長い共通管が確認されることにより診断する。先天性胆道拡張症と胆管非拡張型との境界は，成人では総胆管径 10mm を用いることが多い。しかし小児ではこの基準があいまいであった。本研究では正常小児の胆管径のデータをもとに年齢別の正常胆管径上限値を設定した。これにより小児の非拡張型の報告例の多くが，胆道拡張症に分類されることが判明した。
2. 非拡張型では成人においては無症状で発見されることが多い。しかし小児では全例に先天性胆道拡張症と同様の症状を発症していた。胆道造影でも全例に先天性胆道拡張症に特徴的な所見（総胆管遠位の狭窄，共通管の拡張，胆嚢管の拡張，蛋白栓による陰影欠損）を有していた。成人の非拡張型とは異なり，小児においては先天性胆道拡張症と同様の病態であることを明らかにした。
3. 胆管非拡張型に対しては，成人例では予防的胆嚢摘出術が行われ，肝外胆管切除に関しては一定した見解はない。小児においては先天性胆道拡張症と同様の病態であることが明らかになり，肝外胆管切除を行うことの根拠となると考えられた。

本研究は，小児における胆管非拡張型膵・胆管合流異常の病態を明らかにし，本症の診療を行ううえでの，重要な知見を提供した。

以上の理由により，本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙２

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　　小 野 靖 之
試 験 担 当 者	主　査　柳野正人　後藤秀実　小寺泰弘 指導教授　内田広夫	

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 膵・胆管合流異常の診断および胆管非拡張型と先天性胆道拡張症との鑑別について
2. 胆管非拡張型と先天性胆道拡張症との病態の違いについて
3. 胆管非拡張型膵・胆管合流異常の治療法について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、小児外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙３

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第　　号	氏　名　　小野靖之
学力審査担当者	主査	柳野正人
	指導教授	内田広夫

（学力審査の結果の要旨）

名古屋大学学位規程第１０条第３項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。